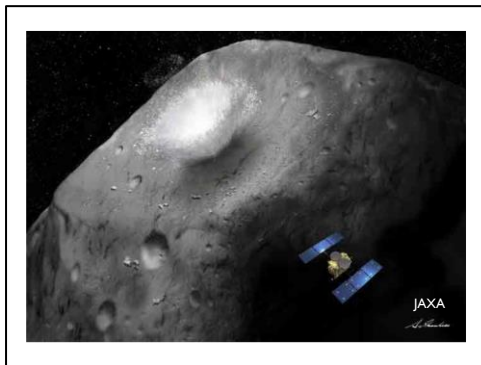


演題「小惑星リュウグウの探査と宇宙衝突実験」

日時：令和2年2月27日(木) 14:50~16:30

場所：4F 階段教室

講師：荒川 政彦 先生



小惑星って何？

なんで小惑星を探査するの？

どうして、はやぶさ2はリュウグウに行ったの？

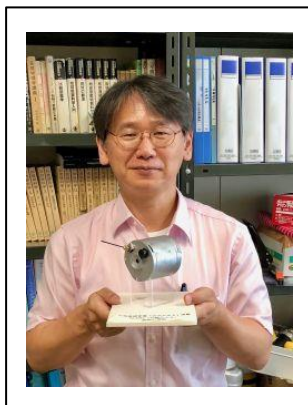
リターンサンプルから何が分かるの？

どうしてインパクターでクレーターを作るの？

クレーターの中はどうなってるの？

2014年12月に打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2」は、昨年6月27日に地球から約3億km離れた小惑星リュウグウに到着しました。今年の4月5日には、インパクターという装置で小惑星の表面に大きな人工クレーターを形成する実験が実施されました。このインパクターによる実験は、リュウグウの表面を掘り起こすことで、小惑星内部を観測して、さらにその内部から試料を採取することを目的としています。このインパクターによる実験では、10mを超える大きなクレーターが形成され、その様子は神戸大学も開発に関わった分離カメラにより撮影されました。この講演では、「はやぶさ2」で実施された様々な探査の概要を紹介したいと思います。

荒川 政彦 先生のプロフィール



神戸大学大学院理学研究科 惑星学専攻 教授

名古屋大学に入学し、大学4年次に、惑星科学の研究室に配属となり、太陽系天体の起源と進化に関する研究を始める。北海道大学、名古屋大学で研究を行い、現在は、神戸大学で小惑星探査や室内実験を通して、太陽系天体の衝突進化や氷天体のダイナミクスに関する研究を進めている。

10名を超える指導学生と共に日夜、実験に明け暮れています。